

本学の取組が大学教育再生加速プログラム(AP)に採択されました

平成21年度に『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開』が大学教育・学生支援推進事業〔テーマA〕大学教育推進プログラム(GP)に採択されましたが、このたび、この取組を加速させることをねらいとした『21世紀を生き抜く考動人〈Lifelong Active Learner〉の育成』が大学教育再生加速プログラム(AP)に採択されました。この取組は本学においてこれまでに展開してきた大学教育改革・再生に関わる事業を『アクティブ・ラーニング』を共通の理念・基盤として加速させ、学生を生涯に亘る能動的な学修者として育成するプログラムです。APはテーマIにアクティブ・ラーニングを、テーマIIに学修成果の可視化を、テーマIIIに高大連携を掲げていますが、本学はテーマIとIIの複合型APを展開することになります。以下にその概要について記します。

◆豊かで確かな社会人基礎力を身につける『考動モデル』の開発

大学には各界より人材養成に関する期待が寄せられ、教育内容の刷新と充実が要請されています。これに応えるために、大学は自らが有する「知」をベースとしたコンテンツを開発していますが、これに加え、「特定の課題に取り組むチームワーク体験」「実社会とのつながりを体感できる教育」等、教育の内容と方法をさらに工夫する必要があります。また学部の専門教育と卒業後の職業生活との間に強い連関性があるとは限らないと指摘する声のあるなかで、最近になって求められるようになった汎用的技能や高次思考力、批判的思考力の涵養にも十分留意する必要があります。

教育方法の改善とアクティブ・ラーニングの展開を目指したGPでは、主として初年次教育においてPBL型授業科目を中心に協同学習や課題発見学習を展開しながら、チームワーク・コミュニケーション能力・課題発見力などのアカデミックスキルの習得を促進してきました(後に『学問モデル』と命名)。これは関西大学が学士課程教育において修得すべきとする「考動力」の重要な要素であり、社会人基礎力の基盤となるものもあります。また、本学のキャリア教育は、自

己認識(Self Awareness)や自己変革の機会認識(Opportunity Awareness)など、キャリア管理力の基礎を修得するコンテンツを提供しています。しかしながら実社会で必要とされるより高次のコミュニケーション能力や創造的思考力の育成、あるいは能動的な社会人の育成に向けての意思決定学習(Decision Learning)や環境適応学習(Transition Learning)の機会が十分であるとはいません。

そこで上位年次の学生にゼミナール以外にもアクティブ・ラーニングの機会を提供し、学生が初年次における『学問モデル』を通して培ったものを基盤に、以後も継続的に省察的学習者・メタ認知のできる学習者として成長しながら、確かに豊かな「考動力」を身につけ、それを大学卒業後にもプラッシュアップし続ける姿勢(ハビトゥス)を培うプログラム(『考動モデル』)を開発します。

◆『考動モデル』のコアと拡がり

先に述べた『学問モデル』では「問い合わせを学ぶこと、すなわち「問い合わせ」の構造と意味を知り、統合して自ら問い合わせを探し、創ること(具体的にはStudent-centered Problem Based Learning)がコアとなっています。今回の『考動モデル』では獲得した知とスキルを実践的に活用しながら、省察を重ねて新たな問い合わせを見出し、その問い合わせを解くための批判的・創造的思考力を培い、より高度な実践力へと結びつけていくこと(具体的には「交渉」「批判的思考」の体験を通して高次のコミュニケーション力・合理的な思考力・的確な判断力ならびに構想力を体験・獲得するPBL・TBL型授業)をコアとしています。このような諸能力・姿勢・スキルの獲得には当該コンテンツの提供のみならず、双方向的・創造的な学習環境、すなわちアクティブ・ラーニング環境の整備が不可欠です。「交渉学(正確にはハーバード流交渉学)」は現在、複数クラスが開講されているほか、それ以外の複数の科目において授業の複数回をこの学問のエッセンスのインストラクションあるいは実践的ワークに充てるマイクロインサーションを実施しています。この「交渉学」を、

初年次向けに開講されているスタディスキルゼミに入門編として複数クラスを、さらに二年次以降の学生を対象とした共通教養ゼミに同じく複数クラスを上級編として開講します。上級クラスで学ぶことを通じて、創造的な交渉力を携えたリーダーを育成します。

既に関西大学では社会人と学生による交渉学ワークショップを複数回開催しています。社会人と学生がチームを組み、共通の課題に対して意思疎通を図りながら情報の不足充足を判断して収集の充実を図り、意思決定をする体験を通して、学生は実社会とのつながりを体感しています。このワークショップに参加した学生は確実に社会人基礎力を向上させ、学部のゼミナールあるいはLAとしてリーダーシップを発揮しています。今後はワークショップの開催頻度と規模を増し、「交渉学」を通して獲得した知とスキルを正課授業科目で得た学生の諸知見に対して活用することを図り、「考動力」育成の実質化を目指します。

◆『考動力』の評価と検証

本学で育成している各種のジェネリックスキルを構成する複数のコンピテンシーを同定します。そのために入学前教育から卒業・終了後の長期にわたって活用できるコモンループリックを作成します。このコモンループリックの大きな特徴は、社会人基礎力や学士力といったこれまでの教育的指標に加えて、DeSeCoの3つのキーコンピテンシーさらには21世紀スキルという未来型指標も参照することになります。本学が目指す「考動力」が国際通用性を持ち、予測不可能なこれから社会に複眼的な視野を持って「知」の世纪をリードするという希望と可能性を実現するために、このような評価に基づいた絶えざる省察が不可欠だと考えるからです。

考動力モデルの開発と評価・検証を通して、本学におけるアクティブ・ラーニングがより確かなものとして展開を加速させ、さらにその取組が他大学においても継承・発展させされることによって我が国の高等教育の質的な向上に貢献できることを望んでいます。

(教育推進部/教育開発支援副センター長 三浦真琴)

**From
CTL事務局**

12月から、平成27年度春学期授業支援SAの新規募集が始まる。

本学で運用している

授業支援SA制度とは、本学学生スタッフ(ステューデントアシスタント=SA)が、授業の教育効果を高めるために、授業担当者が行わなければならぬ軽微な業務や、授業担当者単独では負担になる業務について補助を行うものである。

SAの具体的な業務内容は、授業で使用するパソコン・プロジェクターの設置・回収やカードリーダーによる出欠調査、ミニツッペーパー(コメント用紙)の印刷・整理・データ入力などの、授業をサポートする業務に加え、教員や学生からの質問対応や拾得物対応など非常に多岐にわたる。特に授業支援ステーションでの窓口対応では、教員や学生からの依頼や質問などを伺った際に、その内

容をしっかりと自分の頭の中で理解した上で、事務的な手続きや職員への伝達等を行わなければならない。このため、SAはコミュニケーション能力を有していることが非常に重要であり、採用の選考基準として最も重視している。

選考は、書類審査と面接で行う。面接では、冒頭面接官が簡単な質問をしたり、被面接者からの自己アピールなどを行った後、面接官から出されるテーマについてグループディスカッションを行う。面接を始める前に、「面接ではできる限り発言してください。我々はみなさんの良いところを見たいと思っています。発言がないと我々も採点のしようがないので、積極的に発言してください」と伝えているものの、中にはグループディスカッションでほとんど発言しない学生もあり、見ているこちらが「頑張れ」という気持ちになる。

これまで多くの学生を面接で見てきたが、被面

接者は本学の学生であり、どうしても「何とかしてあげたい」という気持ちで見てしまう。それでも採用予定人員は決まっているため、スコアの低い者は不採用となってしまう。不採用を決める際に「次回も受けてくれるかな?」などと考え、自責の念にかられながら通知を発送している。

さて今年はどのような学生が面接を受けにきてくれるのか。面接は2月の予定である。

最後に、話は変わるが関西大学体育会野球部が、平成26年度関西学生野球連盟秋季リーグ戦にて19年ぶりに優勝、その後の関西地区第1代表決定戦にも勝利し、明治神宮野球大会に出場した。惜しくも創価大に敗れ全国優勝はならなかつたものの、来年も期待できるのではないだろうか。関大生が活躍している姿を見るのは、一卒業生として大変喜ばしいことである。頑張れ! 関大生!!

(裕)



**KANSAI
UNIVERSITY**

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514
<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日 / 2014年12月19日 編集・発行 / 関西大学 教育開発支援センター